

点描ぐんま経済

日銀支店長 見聞録

61

「感性」と「理性」のどちらが大事か。よくテーマとして設定されることが多いと思うが、これを思い返させていただいたのは、ある農業法人の経営者のお話を拝聴したからだ。

この方は最初コンニャクイモの生産をされていたが、その価格が暴落したため、こんにゃくの製造に進出。しかも、大手と差別化するため、有機栽培を導入した。
しかし、こんにゃく製造が順調に拡大していた時、リーマン・ショックが発生。売り上げが減少した中で、この経営者の方が踏み出

農業の変革期

時代に合わせ多角化

したのが太陽光発電。昔は、山持ちの農家の方が経営が安定ということに、ヒントを得た

「農業にとって、今は、明治維新、戦後の農地解放に続く、第三の変革期なのです」という言葉が印象的だった。明治維新のときには、富国強兵・殖産興業から、養蚕業・製糸業に重点配分。これを実現すべく、桑の生産の効率性を上げるため、さらに、素晴らしい

「農業にとつて、今は、明治維新、戦後の農地解放に続く、第三の変革期なのです」という言葉が印象的だった。明治維新のときには、富国強兵・殖産興業から、養蚕業・製糸業に重点配分。これを

「農業にとつて、今は、明治維新、戦後の農地解放に続く、第三の変革期なのです」という言葉が印象的だった。明治維新のときには、富国強兵・殖産興業から、養蚕業・製糸業に重点配分。これを

どういうことかと言えば、変動の大きいビジネスをするときには、変動の小さいビジネスと組み合わせた方が良いということだ。この経営者は、昔の「山の木」の役割を今の「太陽光発電」に求めたのだ。

「農業にとつて、今は、明治維新、戦後の農地解放に続く、第三の変革期なのです」という言葉が印象的だった。明治維新のときには、富国強兵・殖産興業から、養蚕業・製糸業に重点配分。これを

「農業にとつて、今は、明治維新、戦後の農地解放に続く、第三の変革期なのです」という言葉が印象的だった。明治維新のときには、富国強兵・殖産興業から、養蚕業・製糸業に重点配分。これを



岡山和裕（おかやま・かずひろ） 1969年7月生まれ。兵庫出身。東京大法学部卒。92年日本銀行に入り、業務局統括課長、決済機構局業務継続企画課長、情報サービス局総務課長などを経て、2018年4月から現職。